

コミュニティを主体とした持続可能なツーリズムに関する考察

—沖縄県石垣島白保地区を事例として—

高 正

キーワード：持続可能なツーリズム、持続可能なコミュニティ開発、SWOT分析、戦略的計画

1. 研究の背景と目的

白保は日本の沖縄県石垣島の東部沿岸地域にある村である。近海には、北半球で最大のアオサンゴ群集が広がっており、国際NGOである世界自然保護基金（WWF）は、1980年代後半より、白保でサンゴ礁保護を行っている。また2000年には、WWF ジャパンが現地の環境保護と持続可能な発展を指導し、白保にサンゴ礁保護研究センターを設立した。その後、現地コミュニティは、WWF ジャパンの指導と支援のもと、現地主導による白保の環境保全と持続可能なコミュニティの発展を目指し、NPO法人夏花（なつばな）を設立した。NPO法人夏花は、これまでに5回、持続可能な白保発展のためのグループツアーを開催したが、プロジェクトは財政不足、推進力不足、マーケティング不足に直面している。

本研究では、過去5回のツアーの結果を分析し、継続的な観光事業の発展における持続可能性および将来性を検討した。その分析をもとに、本研究では数々の改善策および開発戦略を提案し、実行可能性による順位づけを行った。

2. 研究方法

本研究は3つの段階に分かれている。第1段階の目的は、文献および参加観察による、関連組織の総合的な理解と白保の持続に向けた活動を理解することであった。第2段階では、アンケート調査、インタビュー、フォーカスグループディスカッションによるデータ収集、第3段階では、Strength-Weakness-Opportunity-Threat (SWOT) 分析により収集したデータの評価を行った。これらの段階を経て、白保における持続可能な観光事業発展のための重要な要素が特定され、可能な戦略が提示された。最後に quantitative strategic planning matrix (QSPM) を用い、実現可能性によって戦略を順位づけした。

3. 主な研究成果

本研究において、白保の持続可能な観光事業発展のための Strength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）、Threat（脅威）が明らかとなった。貴重なサンゴ礁資源と伝統文化が最大の強みである一方、財政不足、推進力不足と労働力不足が最大の弱みであることが明らかとなった。また白保の上位2つの機会としては、石垣島が観光地として人気があること、それが理由で白保はWWF ジャパンの脚光を浴び支援を受けることができたことである。同時に白保は他の石垣島の観光地と競わなければいけないという脅威にさらされている。

SWOT分析およびQSPMの結果、21の戦略が実行可能性順に明らかとなり提示された。1番の戦略はツアー活動を取り上げ宣伝してくれるメディアをもっと巻き込むことである。次に望ましい戦略は夏花が財政状況を改善するために政府の財政支援に申請することである。3つ目の戦略としては、政府がもっと積極的に白保が魅力的な観光地であるということを宣伝することである。4つ目の戦略としては、持続可能なコミュニティ開発についての情報がすべてのツアー活動に反映されることである。